

シンポジウム「大規模イベントの楽しみを取り戻す～オリパラ、野球、サッカー、音楽イベントでのコロナ対策のこれまでとこれから～」開催報告

【開催目的】

2021年11月30日にシンポジウム「大規模イベントの楽しみを取り戻す～オリパラ、野球、サッカー、音楽イベントでのコロナ対策のこれまでとこれから～」をオンライン(Zoom)にて開催した。本シンポジウムは、スポーツや音楽イベントなどの多くの人が集まるイベント(大規模集会)におけるリスク評価、管理方法のこれまでの知見を共有し、今後の大規模集会のあり方を議論することを目的に開催された(図1)。

【開催状況】

大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)を主催とし、産業技術総合研究所地質調査総合センター地圏資源環境研究部門、産業技術総合研究所エネルギー・環境領域安全科学研究部門、産業技術総合研究所情報・人間工学領域人工知能研究センター、有志研究チーム MARCO、一般社団法人ナレッジキャピタルを共催、日本リスク学会の協賛と日本財団の助成のもとで開催された。市民、メディア、大規模集会実務者、行政関係者、研究者などを対象としたもので、参加申し込み者数208名(登壇者等含む)、当日の入室者数は199名(重複入室、登壇者等を含む)であった。このうち、最も多かったのはスポーツ関係の会社員(32%)であり、それ以外の会社員(22%)、公務員等(18%)、教員・研究者(16%)と続いた(CiDERへの申し込み情報に基づく)。参加費は無料であった。

【プログラムの内容】

シンポジウムのプログラムを表1に示す。シンポジウムの司会は水野祥子(大阪大学感染症総合教育研究拠点特任学術政策研究員(常勤))が務めた。松浦善治(大阪大学感染症総合教育研究拠点拠点長)による開会のあいさつの後、6名の登壇者から取り組みの紹介があった。

中村英正(東京五輪・パラリンピック組織委員会 GDO(大会開催統括))からは、東京オリンピックパラリンピック2020大会で行われた取り組みについての紹介があった。

村上道夫(大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授(常勤))からは、大規模集会での観客の感染リスク評価や各種対策の評価についての報告があった。

三浦麻子(大阪大学大学院人間科学研究科教授;感染症総合教育研究拠点兼任)からは、東京オリンピックパラリンピック2020大会前後での人々の意見の推移についての紹介があった。

大竹文雄(大阪大学感染症総合教育研究拠点副拠点長・特任教授(常勤))からは、ワクチン接種率の向上策や大規模集会などを含めたワクチン検査パッケージについての視座が提示された。

保高徹生(産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門研究グループ長)からは、ワクチン検査パッケージの実証調査など、大規模集会における各種対策の実施状況の測定についての報告があった。

村井満(Jリーグチェアマン)からは、Jリーグが実施してきた新型コロナウイルス感染症流行初期からこれまでの取り組みと今後の展望についての提供があった。

パネルディスカッションでは、岸本充生(大阪大学社会技術共創研究センター教授;感染症総合教育研究拠点兼任)の司会のもと、井原敦(日本野球機構(NPB)事務局長)、長井延裕(一般社団法人コンサートプロモーターズ協会常務理事)、賀来満夫(東北医科薬科大学医学部特任教授・東北大学名誉教授・NPB・Jリーグ新型コロナウイルス対策連絡会議座長)、滝順一(日本経済新聞編集委員)の4名のパネリストによる議論が行われた。

最初に、4名からそれぞれの取り組みの紹介やほかのパネリスト・発表者への質問があった。その後、視聴者の方々からの質問への回答を交えながら、討論を行った。今後、ワクチン検査パッケージなどのエビデンスをどのように集めるか、リスクをどのように許容するか、科学的知見などについて誰がどのように一般の方々との対話を進めていくかといった課題やその解決法などの将来展望に関する議論があった。専門家がエビデンスや情報提供を行い、主催者や政策担当者が議論の知見を公開しながら多様な価値や立場を踏まえて判断する、といった意見が述べられた。また、多様な価値や立場をつなぐ際に、リスク評価がその役割を果たした側面があるとの指摘もあった。科学的知見に関する対話のあり方においては、イベント主催者や専門家が記者会見やHPなどを通じて情報提供をしてきた経緯が紹介された。今後も、人々が持つ価値や利他的な動機を踏まえたうえで、エビデンスをわかりやすく示し、情報開示のレベルを高めながら知見の共有を進めていくことが重要であると言及された。

最後に、野村卓也(一般社団法人ナレッジキャピタル 総合プロデューサー・内閣府 イノベーション推進担当 政策参与)よりあいさつがあり、中野貴志(大阪大学核物理研究センター教授;感染症総合教育研究拠点部門長)から閉会の言葉が述べられ、シンポジウムを閉じた。

【参加者の声】

シンポジウム後のアンケートでは、97%が「大変満足した」または「満足した」と回答した(図 2)。実際にイベントを開催する立場の方や専門家といった多様な登壇者からの話題提供であったことについて高く評価する回答が見られた。CiDER 科学情報・公共政策部門の行動経済学、社会心理学、リスク学といった分野の異なる専門家の他、環境学や医学を専攻する専門家、大規模集会の実施者、ジャーナリストといった多様な立場と専門性を有する登壇者からシンポジウムが構成されたことが評価につながったと考えられる。今後も今回のような各分野の専門家による講演や多くの方が興味を持つようなテーマに関する科学的情報発信への期待の声が寄せられた。

(文責:大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤) 村上道夫)

大規模イベントの 楽しみを取り戻す

～オリパラ、野球、サッカー、音楽イベントでのコロナ対策のこれまでとこれから～

開催日時 2021年11月30日（火）午前9時30分～午前11時50分

開催方法 Zoomによるオンライン開催（事前申込制） **参加費** 無料
※人数が上限に達した時点で切替します。

申込方法 **申込フォームからのお申込**
<https://forms.gle/ra5i8vr7mnUAd3KA7>

※申込時のメールアドレスに Zoom の URL が送付されます。
※申込フォーム（google フォーム）の入力がシステムの関係で難しい場合は、
メールにてお問い合わせください。



どなたでも
参加OK!

趣旨・目的

新型コロナウイルス感染症の流行以降、スポーツイベントなどの多くの人が集まるイベント（大規模集会）の開催にあたっては、選手やスタッフの検査体制の構築、観客らの観戦ルール作り、流行状況に応じた観客動員の設定など、さまざまな感染対策が実施されてきた。東京オリンピック・パラリンピックが開催され、第5波がおおむね収束を遂げた中、ワクチン検査パッケージの実証など、大規模集会のリスク管理に関する新たな展開がみられる。そこで、これまでの大規模集会におけるリスク評価、管理方法の知見を共有し、今後の大規模集会のあり方を議論する。

シンポジウムプログラム

取り組みの紹介
（登壇者）
9:32～10:42



2
大規模集会における
解決志向リスク評価と実践
村上 道夫氏

大阪大学
感染症総合教育研究拠点
特任教授（常勤）



4
ワクチン接種率向上策について
大竹 文雄氏

大阪大学
感染症総合教育研究拠点
副拠点長・
特任教授（常勤）



6
コロナ禍でのJリーグ運営
村井 満氏

Jリーグチーフマン



1
東京 2020 大会を振り返って
（ポジ面・ネガ面）
中村 英正氏

東京五輪・パラリンピック
組織委員会 800
（大会開催技術）



3
東京 2020 オリンピックを人々は
どう受け止めたか：
開催賛否に関するパネル調査
三浦 麻子氏

大阪大学大学院
人間科学研究科教授・
感染症総合教育研究拠点主任



5
マスギャザリングイベントにおける
感染予防のための調査とリスク評価
保高 徹生氏

産業技術総合研究所
地圏資源環境研究
部門研究グループ長

パネル
ディスカッション
10:42～11:45



1
井原 健氏

日本野球機構（NPB）
事務局長



2
長井 延裕氏

一般社団法人コンサート
プロモーターズ協会
常務理事



3
賀来 清夫氏

東北医科大学医学部
特任教授・東北大学名誉教授・
NPB・Jリーグ
新型コロナウイルス対策
連絡会副会長



4
滝 順一氏

日本経済新聞
編集委員

主催：大阪大学感染症総合教育研究拠点
共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター地圏資源環境研究部門、産業技術総合研究所エネルギー・
環境領域安全科学研究部門、産業技術総合研究所情報・人間工学領域人工知能研究センター、
有志研究チーム MARCO、一般社団法人ナレッジキャピタル

協賛：日本リスク学会
助成：日本財団

問い合わせ先：大阪大学感染症総合教育研究拠点（CIDER） TEL：06-6877-5111（代表）
MAIL：info@cider.osaka-u.ac.jp



図1 シンポジウムのリーフレット

表1 シンポジウムのプログラム

時間	話題提供者	内容
司会:水野祥子(大阪大学感染症総合教育研究拠点特任学術政策研究員(常勤))		
9:30-9:32	松浦善治(大阪大学感染症総合教育研究拠点拠点長・特任教授(常勤))	開会のあいさつ
取り組みの紹介		
9:32-9:47	中村英正(東京五輪・パラリンピック組織委員会 GDO(大会開催統括))	東京2020大会を振り返って(ポジ面・ネガ面)
9:47-9:57	村上道夫(大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授(常勤))	大規模集会における解決志向リスク評価と実践
9:57-10:07	三浦麻子(大阪大学大学院人間科学研究科教授;感染症総合教育研究拠点兼任)	東京2020オリンピックを人々はどう受け止めたか:開催賛否に関するパネル調査
10:07-10:17	大竹文雄(大阪大学感染症総合教育研究拠点副拠点長・特任教授(常勤))	ワクチン接種率向上策について
10:17-10:27	保高徹生(産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門研究グループ長)	マスクギャザリングイベントにおける感染予防のための調査とリスク評価
10:27-10:42	村井満(Jリーグチェアマン)	コロナ禍でのJリーグ運営
パネルディスカッション		
司会:岸本充生(大阪大学社会技術共創研究センター教授;感染症総合教育研究拠点兼任)		
10:42-11:10	パネリストから各自取り組みの紹介やほかのパネリスト・発表者への質問 <ul style="list-style-type: none"> ● 井原敦(日本野球機構(NPB)事務局長) ● 長井延裕(一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事) ● 賀来満夫(東北医科薬科大学医学部特任教授・東北大学名誉教授・NPB・Jリーグ新型コロナウイルス対策連絡会議座長) ● 滝順一(日本経済新聞編集委員) 	
11:10-11:40	参加者からの質問・回答	
11:40-11:45	パネリストから一言	
11:45-11:50	野村卓也(一般社団法人ナレッジキャピタル 総合プロデューサー・内閣府 イノベーション推進担当 政策参与) 中野貴志(大阪大学核物理研究センター教授;感染症総合教育研究拠点部門長)	閉会のあいさつ

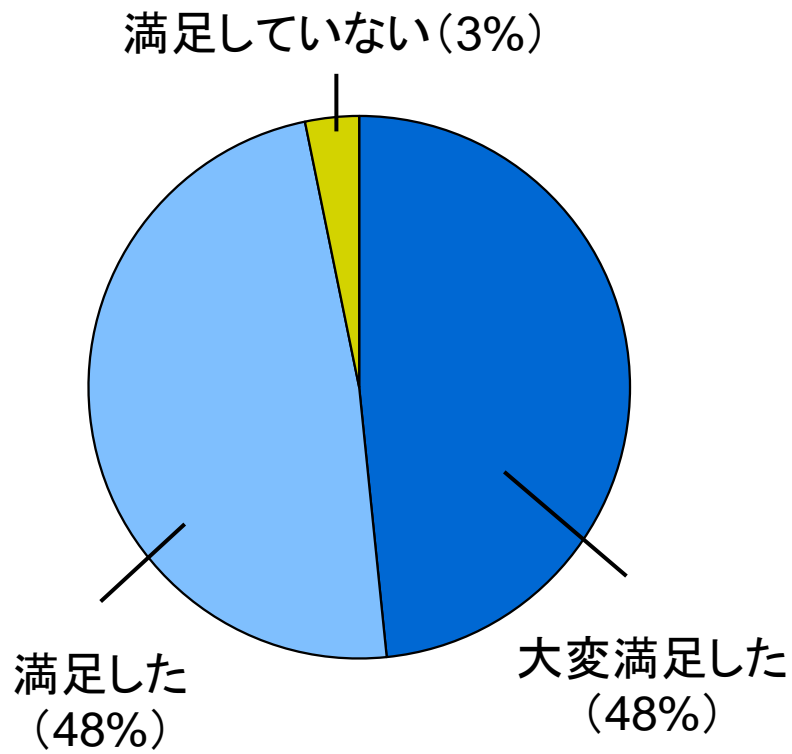


図2 シンポジウムの感想(回答者数:30名)
注:四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある